

もう30年ほど前のことです。私は花まる学習会を設立する前、予備校で大学受験生の学習指導をしていました。そこに「どうしても成績が伸びない子」がいて、そういう子には共通点があることに気がつきました。

それは、みんな優しく「言われたこと」は素直にやるのですが、「熱意や意欲」が感じられず、極めて生命力が乏しいということでした。

それを目の当たりにした私は、「たとえ大学を出たとしても、果たしてこの子たちは将来、社会人としてメシが食っていけるのか? 社会はそんなに甘くないの!」と危機感を持ったのです。

世の中の塾の多くは、できるだけ偏差値の高い学校に合格させるためのスキルだけを教えます。しかし、私は「もうそれだけではため、教育を根本から変えていかないといけない」と思いました。つまり、「子どもたちが社会に出てからメシが食っていけるための教育をしなければならぬ」と思い立ったのです。この問題に挑み続けたのが、これまでの花まる学習会の歴史です。

では、子どもたちが「メシが食える」ようになるためには、どんな力を育めば良いのでしょうか。それは、「見えないものが見える力」と私は思っています。これを「頭の良さ」とは思いません。

これをまず勉強で言えば、「公式の暗



「メシが食っていける大人」を育てたい!



花まる学習会代表



高濱 正伸

記ではなく、補助線(問題に出された図形には存在しないが、解答を導き出すために加える便宜的な線)を見出す力です。

人生全般において言えば、要点や本質、相手の言いたいことやアイデアなど、「実際にはその場に存在しないものを思い描く力」のことを指します。

この力を育むために私が作ったのが「なぞべー」という問題集です。これを元にした教育アプリ「Ezine」(Ezineは、全世界対象のアプリコンテストで、複数回受賞しました。これは、子ども向け教材のアプリとしては異例の実績です。

これからの時代は、「とりあえずこの資格を取れば安泰」ということはなくなりません。

人工知能が台頭する時代に求められるのは、従来の発想にとらわれない独創的で豊かな発想力で、まさに「見えないものが見える力」です。

では、我が子のこの力を伸ばすためにはどうすれば良いのか。重要になるのは「外遊び」です。

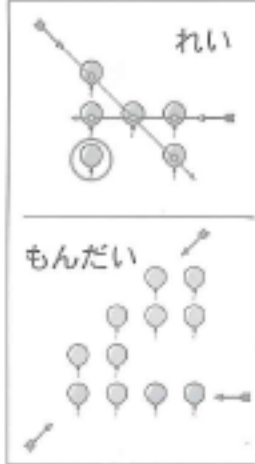
私がまだ若い頃、尊敬する教育界の先輩が「小学4年生くらいまで走り回って遊んだ子は伸びるよね」とおっしゃっていたことが、とても印象に残っています。

そしてそれは、今、現場でも痛感しています。しかし、最近は公園でさえも「ボール遊びをしないでください」と貼

【たかはま・まさのぶ】1959年熊本県人吉市生まれ。東京大学農学部卒、同大学院農学系研究科修士課程修了。1993年学習塾「花まる学習会」を設立。1995年進学塾「スクールFC」を設立。同会が主催する野外体験企画では延べ50000人を引率した実績がある。NPO法人「子育て応援隊むぎぐみ」理事長。日本棋院理事。ロングセラー『伸び続ける子が育つお母さんの習慣』(青春出版)、『なぞべー』シリーズ(草思社)ほか著書多数。



をそばして風船をわります。われない風船に○をつけよう。



り出されています。だから私たちの塾では「花まる野外体験」と銘打って、長野や新潟、山梨の山や川に子どもたちを遊びに連れて行っています。

子どもたちと川に入って大騒ぎしていた時のこと。そこに地元の子がやって来ました。私が「一緒に川に入らない？」と聞くと「学校で禁止されています」と言っています。

たしかに、もし私がその地域の校長先生だったとしたら、立场上「危ないから行くな」と言ってしまうかもしれないですね。だからこそうちの塾で最高の遊びを提供しようと思って活動を続けているのです。



子どもたちが「メシが食える大人になるためのもう一つの力、それが「仕事」です。

以前、ある小学5年生A君のお母さんから「先生、助けてください」と私の塾に電話がかかってきました。

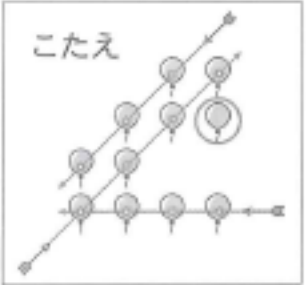
「どうしたんですか？」と聞くと「かわいかったAが家庭内暴力を振るうようになってしまったということでした。

そこで私は、「では、お父さんが仕事をしているところをせひ見せてあげてください」と提案したのです。A君のお父さんは大工で、A君は実際に現場を見学に行きました。

そこには、部下にきびきびと指示を出して、叱咤激励するカッコいいお父さんの姿がありました。家でお母さんに掃除機で突つかれている、あの情けないお父さんではなかったのです。

それでA君の目から鱗が落ち、「カッコいいじゃん、パパ！」と感動して、家で乱暴することはなくなったとのことでした。

皆さんは家で仕事の愚痴ばかりこぼしていませんか？ お父さんを掃除機で突っついて無下に扱っては



いませんか？

子どもたちは生き生きと働く大人たちを見たがっています。せひ、子どもたちに仕事のすばらしさを伝えてあげてください。



私がこうした思考力や野外体験に力を入れた塾の経営を行っていく中で、気がついたことがあります。

それは、子ども自身の学習だけではなく、子どもたちの背景にある家族や夫婦関係が大切だということです。

そのことに気がついた私は、それから「母親だからできること」や「父親だからできること」という講演を始め、今でも続けています。

そこで、次回以降は「子どものために家族関係・夫婦関係をどうすれば良好に保つことができるのか」についてのお話をしていこうと思います。

（花まる学習会神奈川事務局が横浜市で主催した講演会より／取材：山本関東特派員 編集：若屋佳朗）

お茶の水教育カレッジ講演会シリーズ

子どもの実力を伸ばす具体策

第6回

わが子の「おけいごと」どう選ぶか



高濱 正伸

花まる学習会代表 子育て応援隊むさむさ理事長

10月11日(金)

10:30~12:00 (開場10:00)

東京都 御茶ノ水ソラシティ アカデミア 5F

参加費 500円

※要事前申し込み 10/10(10:00)締切 高校生以上のみ参加可能です

【お問合せ】

お茶の水教育カレッジ 運営事務局 mail:info@edupla.jp(担当:すずき)

詳細・お申込みはこちらから→

